様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月　５ 日現在

機関番号：１２１０２
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2021～2022
課題番号：２１Ｋ２０１８８

研究課題名（和文）自閉スペクトラム症者の就労支援における「経験の語り」がもつ意義

研究課題名（英文）The significance of "narrative of experience" in employment support for people with autism spectrum disorder.

研究代表者
末吉　彩香（Sueyoshi, Ayaka）

筑波大学・人間系・助教

研究者番号：９０９０８７９０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は自閉スペクトラム症（Autism Spectrum Disorder：ASD）者を含む発達障害者の就労支援において、他者の就労に関する経験を聞くこと、就労後に他者に自己の経験を語ることが、就労に向けた意識・行動の変化や自己理解の深化にどのような影響を与えるかについて明らかにすることを目的に実施した。発達障害当事者へのアンケート調査やインタビュー調査を通し、ASD者を含む発達障害者への就労支援における「他者の経験を聴く・語る」実践は，経験を聞く者にとって有益であるだけでなく，経験を語る者にとっても自己理解の深化や社会生活を送るうえでの自信につながる可能性があることを示すことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
就労後の他者の経験談を聞くことを通した情報提供や就労後の見通しをつけるための支援は、様々な支援機関で試みられている。一方で、「他者の経験を聞く・自己の経験を語る」場の支援上の効果の検証は不十分であった。本研究では、発達障害者への就労支援において「経験の語り」を用いた実践が経験を聞く側・語る側双方に肯定的影響があることを示した。さらに昨今では他者の経験談を聞く場や方法が多様化しているほか、他者の経験談を就労準備に効果的に繋げるための個別の支援が必要であることも示唆された。本研究の成果は、高等教育機関や就労移行支援事業所、自立訓練事業所等、多様な支援場面に波及すると考えられる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to clarify the effects of listening to others' experiences in employment and of talking about one's own experiences to others after employment on the change in attitudes and behavior toward employment and the deepening of self-understanding in employment support for people with developmental disabilities, including those with Autism Spectrum Disorder (ASD). Through questionnaires and interviews, I was able to show that the practice of "listening to and talking about others' experiences" in employment support for people with developmental disabilities, including people with ASD, is not only beneficial for those who listen to their experiences, but may also lead to deeper self-understanding and confidence in social life for those who talk about their experiences.

研究分野：障害学生支援

キーワード：自閉スペクトラム症　就労支援　ナラティブ　自己効力　自己理解　発達障害

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９，Ｆ－１９－１，Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

（1）国内の自閉スペクトラム症（Autism Spectrum Disorder：ASD）学生の現状

自閉スペクトラム症（Autism Spectrum Disorder：ASD）学生は我が国の高等教育機関に在籍する発達障害学生の約半数を占めており（独立行政法人日本学生支援機構，2020），ASD 学生を含む発達障害学生への支援では，就労に向けた支援方法の蓄積と効果検証の必要性が指摘されている（丹治・野呂，2014）。発達障害学生は卒業後すぐに就職せず，就労移行支援機関を利用することも多い（独立行政法人日本学生支援機構，2017）が，支援の現場では，支援知識や経験の不足から明確な支援方法が確立できず，提供される支援と利用者のニーズがミスマッチを起こす状況が危惧されている（社会福祉法人横浜やまびこの里，2014）。したがって，ASD 者の高等教育機関や就労移行支援機関から実際の就労場面への移行の過程，及び就労後の職場定着について，具体的な支援方法の提案と効果検証が必要である。

（2）発達障害者に対する「経験の語り」の場を活用した支援の意義

病や障害のある人が，他者の経験を聞く，あるいは自己の経験を語ることを通した支援は国内外で提供されている。発達障害者支援においても，他者の経験を聞く，あるいは自己の経験を語るという実践が報告されている。例えば研究代表者は，発達障害学生を含むグループ活動（座談会）において，学生が互いの生活上の困難や工夫を共有することが学生同士の互恵的関係の構築に有効であることを明らかにした（末吉・佐々木・竹田，2020）。また ASD 者が自助グループ等で自己の個性や経験を語る場を持ち，自己理解を促進させるようなロールモデルと出会うことは，障害理解を踏まえた肯定的な自己理解に至る要因の一つである（山下・渡邉・井出，2017）

２．研究の目的

本研究の目的は ASD 者にとって他者の就労に関する経験を聞くこと，自己の就労に関する経験を語ることが，就労に向けた意識・行動の変化や自己理解の深化にどのような影響を与えるかについて明らかにすることである。

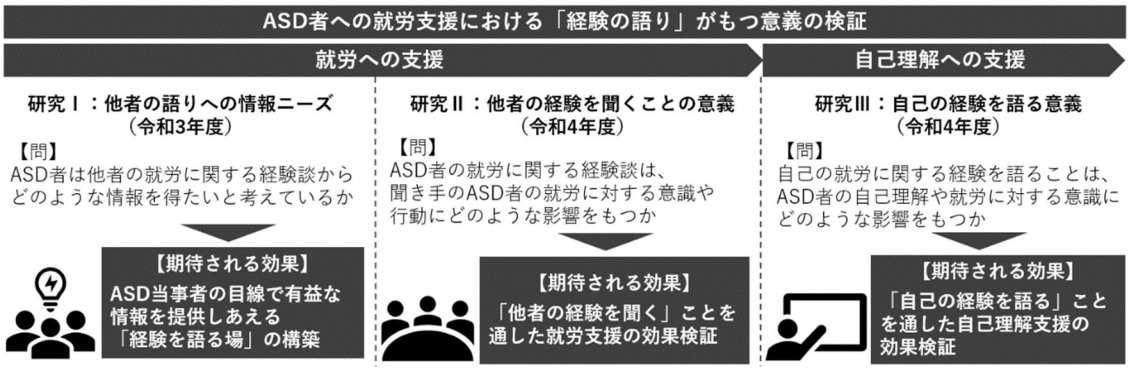

Fig.1　本研究の目的と期待される効果

３．研究の方法

研究の過程で ASD 者には他の障害を重複する者が多い実情を踏まえ，対象を ASD 者だけでなく他の発達障害をもつ者にも拡大した。

（1）研究Ⅰ：発達障害者のもつ他者の就職活動・就労経験に対する情報ニーズ

202X 年 12 月～202X＋1 年 1 月に，関東と関西に複数拠点を設け,発達障害者を主な支援対象とする A 就労移行支援・生活訓練事業所の利用者及び A 事業所で発達障害の傾向のある学生向け支援プログラムに参加する学生，また関東にある B 国立大学で障害学生支援室を利用する発達障害学生を対象に WEB アンケート調査を実施した。アンケート調査では他者の就職活動等の情報を見聞きした経験，他者の就職活動・就労経験に対する情報ニーズについて回答を得た。自由記述回答については質問項目ごとに KJ 法を援用しカテゴリ化した。

（2）研究Ⅱ：他者による就労に関する経験の語りが発達障害者に与える影響

202X 年 7 月～12 月に上記 A 事業所内で実施された，「先輩の経験談を聞くイベント」参加者（大学生，就労移行支援利用者，生活訓練利用者）の感想を WEB アンケートで取得した。イベントは計 24 回実施され，各回でアンケート調査への回答を依頼した。アンケートでは,参加してよかったかどうか，参加したことが就職活動や卒後の生活をイメージするために役立ったか，参加したことで就職活動や卒後の生活に自信が持てるようになったか，今後の同様のイベントに参加したいかについて「とてもそう思う」，「少しそう思う」，「どちらともいえない」，「あまりそう思わない」，「全くそう思わない」の 5 件法で回答を得た。また,選択式の設問に対する回答の理由を自由記述で記入してもらった。自由記述の内容については KJ 法を援用しカテゴリ化した。

（3）研究Ⅲ：発達障害者における自己の就労に関する経験の語りがもつ支援上の意義

研究Ⅱのイベントにおいて自己の就職活動や就労の経験を他者に語った発達障害者（就労している者）に対して半構造化面接を行い，就労を目指して取り組んだ経験や就労に至るまでの過程等を他者に伝えたことが，自己理解にどのような影響を与えたかを聞き取った。インタビューで聞き取った内容はテーマティック・アナリシス法を用いた分析を試みた。

４．研究成果

本研究は当初，「就労支援の中で ASD 者が互いの就労に関する経験を聞く・語ることの支援上の意義を明らかにする」ことを目的に開始された。研究を進める中で，ASD 者を含む発達障害者への就労支援における「他者の経験を聴く・語る」実践は，経験を聞く者にとって有益であるだけでなく，経験を語る者にとっても自己理解の深化や社会生活を送るうえでの自信につながる可能性があることを示すことができた。

（1）研究Ⅰ：発達障害者のもつ他者の就職活動・就労経験に対する情報ニーズ

162 件（学生 29 件，就労移行支援利用者 96 件，生活訓練利用者 37 件）を分析対象とした。対象者の多くは同じ障害を持つ他者の就職活動や就職してからの生活に関する経験を見聞きしたいと感じており，支援機関等における他者の経験談に触れる機会提供の有益性が示された。このような機会はロールモデルの獲得に寄与し，就職活動に関する具体的な情報や当事者の工夫を知ることで実際の就職活動が促進されるほか，就労後の生活をイメージすることで自己を前向きに受け止めることにつながると考えられた。さらに，経験談を得るために，当事者の語りを直接聞く以外にも，支援者を経由して他者の経験談を聞く，本やブログを読むといった多様な方法があることも示唆された。

一方で，本研究の対象者は所属機関において同じ障害を持つ他者の経験談を聞く機会が多いことから，経験を見聞きすることに肯定的反応を示しやすかった可能性がある。また，他者の経験談を聞くことで就職活動や将来の生活に対して不安が増すという結果も示され，この点は，他者の経験を聞く機会の活用にむけた課題であると考えられる。

（2）研究Ⅱ：他者による就労に関する経験の語りが発達障害者に与える影響

343 件（学生 37 件，就労移行支援利用者 232 件，生活訓練利用者 49 件，その他の参加者 25 件）を分析対象とした。その他の参加者には、イベント当日に事業所を体験利用していた者、就労定着支援を受けている就労後 2 年以内の者などが含まれた。結果，参加者のほとんどがイベントに対して肯定的・意欲的な態度であり，イベントが就職活動や卒業後の生活を具体的にイメージするために役立ったと回答した。一方でイベント参加が就職活動や卒業後の生活への自信につながったかという問いへの肯定的回答は全体の半数強（約 75%）であり，見聞きした他者の経験を個人のキャリア成熟や就職活動に生かすための支援上の工夫が必要であると考えられた。

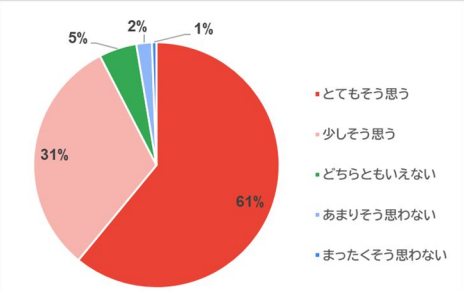

Fig.2 イベントに参加してよかったか

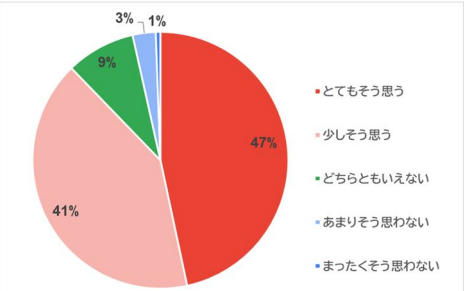

Fig.3 イベントに参加したことは自分の就職活動や卒業後の生活を具体的にイメージするために役立ったか

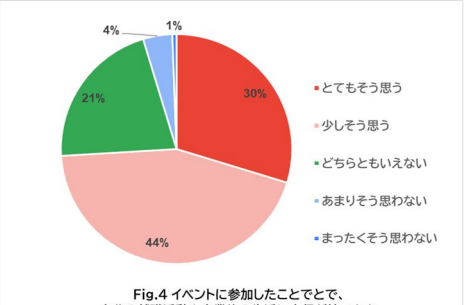

Fig.4 イベントに参加したことでとて、自分の就職活動や卒業後の生活に自信が持てたか

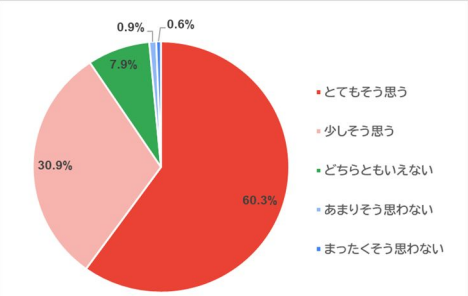

Fig.5 今後も同様のイベントに参加してみたいか

（3）研究Ⅲ：発達障害者における自己の就労に関する経験の語りがもつ支援上の意義

9 名のイベント登壇経験者が半構造化面接に参加した。イベント登壇のために自己の経験を振り返ったことが自己理解の深化に寄与したことが推察された。先輩の立場で後輩に自己の経験を語ることは登壇者にとって社会貢献の一環としても認識され，登壇により達成感を得たことが自信につながったという例が複数認められた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 末吉彩香
２．発表標題 発達障害者の就労支援における「同じ障害を持つ他者の経験談」を見聞きすることの意義
３．学会等名 日本LD学会
４．発表年 2022年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関